

新しいモデル駆動開発 教育のあり方を探る

久住 憲嗣
九州大学 システムLSI研究センター

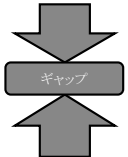
モチベーション

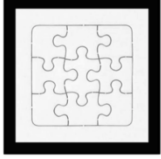
- 背景
 - 品質, コスト, 納期への激しいプレッシャー
 - グローバル化による安く優秀な人材との競争
- モデル駆動・ベース開発ができる技術者を量産したい
 - 要は自動化, 上流での検証などを活用できる技術者を育てたい
 - 新しい技術が出たときに, 現場に適切に適用できる技術者を育てたい
- 教育の方法論が確立していない
 - なにを教育したら良いのか?
 - 大学でできることはなにか?
 - 企業でできることはなにか?

2

モデル駆動開発教育に必要な項目

- 組み込み向けモデル駆動開発レイヤ
 - アプリケーションドメイン
 - モデリング
 - 抽象化
 - ドメイン分割
 - ブリッジ
 - アーキテクチャ設計
 - OS, ミドルウェア
 - C言語
- 開発ごとに異なる(はずの)プロセス設計
 - どの工程でなにを成し遂げるかの設計
 - 技術のスコーピングとドメイン分割
 - アプリケーションドメイン
 - 技術ドメインの組み合わせ
 - ブリッジ





3

アジェンダ

- 事例の紹介
 - 産業界と連携した高品質組み込みソフトウェア技術者養成プロジェクト
 - 九州技術教育専門学校 赤山 聖子
 - ETロボコン 九州地区特別企画 モデル駆動開発プロセス審査
 - 九州大学 久住 憲嗣
- フロアとの議論

4